

官報

號外 昭和十四年三月十六日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十三號

昭和十四年三月十五日(水曜日)午前十時十分分開議

議事日程 第二十三號

昭和十四年三月十五日

午前十時開議

第一 日本產金振興株式會社法中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二 恩給法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第三 國債整理基金特別會計法中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第四 明治三十九年法律第三十四號中

改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第五 明治四十二年法律第九號中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第六 職員健康保險法案(政府提出、衆議院送付)

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第七 酪農調整法案(政府提出、衆議院送付)

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第八 明治四十五年法律第二十三號中

改正法律案(政府提出、衆議院送付)

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマス
(丸龜書記官朗讀)

一昨十三日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

臨時軍事費豫算追加案(臨第一號)

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

作業會計法中改正法律案

兌換銀行券整理法中改正法律案

農業再保險特別會計法案

海軍工廠資金會計法中改正法律案

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

森林法中改正法律案

林業種苗法案

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案可決報告書

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

地方鐵道法中改正法律案可決報告書

軌道法中改正法律案可決報告書

昨日十四日產金法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 子爵井上匡四郎君

副委員長 土方 久徵君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)

昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

日本產金振興株式會社法中改正法律案

恩給法中改正法律案

國債整理基金特別會計法中改正法律案

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案

明治四十二年法律第九號中改正法律案

職員健康保險法案

酪農調整法案

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

文部省所管事務政府委員

文部書記官 柴沼 直君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

礦業法中改正法律案可決報告書

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

前項ノ規定ニ依リ產金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十條第一項但書中「及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル產金振興債券」ヲ「並ニ當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル產金振興債券及借入金」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル)

○國務大臣(八田嘉明君) 只今議題トナリマシタ日本產金振興株式會社法中改正法律案ニ付テ提案理由ヲ御説明致シマス、時局ノ進展ニ伴ヒマシテ金ノ重要性ハ愈々増大スルノミデアリマス、從ヒマシテ產金事業ノ振興ニ付キマシテモ、更ニ一段ノ積極的措置ヲ講ズル必要ガアルノデアリマスルガ、本法律案ハ此ノ事態ニ即應スルガ爲、曩ノ帝國議會ニ於テ御協贊ヲ得マシタル日本產金振興株式會社法ヲ改正シテ、同會社ノ事業ヲ更ニ一層積極的ナラシメムトスルモノデアリマス、改正ノ第一點ハ政府ガ日本產金振興株式會社ニ對シ、產金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲シタル場合、之ニ依ッテ損害ヲ生ジタルトキハ、其ノ生ジタル損失ヲ政府ガ補償セムトスルモノデアリマス、其ノ第二點ハ日本產金振興株式會社ニ對スル配當補給金ノ限度ヲ擴張セムトスルモノデアリマス、何レモ同會社ヲシテ徒ニ其ノ缺

損ニ躊躇スルコトナク、其ノ本來ノ設立目的デアル產金事業ノ振興ニ邁進セシメムトスル趣旨デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ日本產金振興株式會社法中改正法律案ハ、關聯致シマスル所ガアリマス故ニ、產金法中改正法律案特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重幸君 贊成
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、恩給法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、黑崎法制局長官

恩給法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十四日
衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

恩給法中改正法律案

恩給法中左ノ通改正ス

第三十二條第一項第二號ヲ左ノ如ク改ム
二 戰地外ニ在リテ航空部隊ニ屬シ航空基地ニ於テ特殊ノ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月
三 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外戰地外ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

同條第三項中「地域」ノ下ニ「航空基地及航空基地タル期間」ヲ加フ
第五十九條ニ左ノ一項ヲ加フ
前五項ニ規定スル納金ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得

附則

本法ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十二條ノ改正規定ハ昭和十二年七月七日ヨリ之ヲ適用ス

(政府委員黑崎定三君演壇ニ登ル)

○政府委員(黑崎定三君) 只今上程セラレマシタ恩給法中改正法律案ノ提出理由ヲ申上ゲマス、本案ヲ以テマシテ改正セムトスル事項ハ二點ニ相成ルノデアリマス、其ノ一ツハ現行恩給法ニ於キマシテハ、戰地又ハ事變地ニ於テ職務ニ服シマスル公務員ニ對シマシテ、恩給在職年ノ計算方其ノ服務期間ノ一月ニ付三月ヲ加算致シ、又戰地外ニアリマシテ職務ニ服シテ居リマスル者ニ對シマシテハ、其ノ服務期間ノ一月ニ付キ一月半ノ加算ヲ爲スコトナッテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り、近代航空技術ノ發達ニ伴ヒマシテ、戰地外ノ航空基地カラ致シマスル遠距離作戰ガ屢々行ハレテ居ルノデアリマシテ、此ノ作戰關係者ノ中デ、戰地ニ行キマスル航空機ノ乗員ハ、前述ノ戰地ニ於テ職務ニ服スルモノデアリマスルカラ、一月ニ付三月ノ加算ヲ受ケルノデアリマス、然ルニ航空基地ニ於テ地上勤務ニ服シマスル者ハ、前述ノ一月ニ付一月半ノ戰地外勤務ノ加算ヲ受ケルニ過ギナイコトトナッテ居ルノデアリマス、併シナガラ航空基地ハ、常ニ敵ノ攻撃ヲ受ケル危險ニ曝サレテ居ルノデアリマス、而モ航空機ノ乗員

ト基地ニ於ケル地上勤務員トハ、密接不可離ノ關係ニアリマシテ、是ガ一體トナリマシテ、初メテ完全ナ戰闘力ヲ發揮シ得ルモノデアリマスルカラ、之ヲ分別致シ、其ノ在職年加算ニ差等ヲ設ケマスルノハ甚ダ不適當デアルノデアリマス、ノミナラズ地上勤務員ノ勞苦、身體能力ノ消耗度ハ、戰地ニ行ッテ職務ニ服シテ居リマスル者ト比較致シ、決シテ劣ルモノデハナイノデアリマスルカラ、是等地上勤務員ニ對シマシテモ、戰地ニアル者ト同様ニ、一月ニ付三月ノ加算ヲ爲スコトガ必要デアルノデアリマス、

右ガ改正ノ第一點デアリマス、其ノ二ハ、現行法ニ依リマス、下士官以上ノ軍人及其ノ他ノ公務員ハ總テ俸給ノ百分ノ一又ハ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ毎月國庫ニ納付スル義務ヲ負フテ居ルノデアリマス、然ルニ戰地ニ於キマシテハ、部隊ハ各地ニ移動致シマスル上、此ノ納金ノ徵收事務ガ非常ニ複雑デアリマスル關係カラ、其ノ實行ハ著シク困難デアリマシテ、場合ニ依リマシテハ不可能ニ近イコトモアルノデアリマス、ソコデ戰時又ハ事變ニ際シマシテハ、一定限度ニ於テ此ノ納金義務ヲ免除シタイト考ヘマシテ、此ノ趣旨ノ規定ヲ設ケヨウト致シマスルノガ改正ノ第二點デゴザイマス、以上本案ヲ提出致シマシタ理由デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ御願ヒ致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑ガナケレバ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(丸龜書記官朗讀)
恩給法中改正法律案特別委員
公爵岩倉 俱榮君 子爵立花 種忠君

子爵植村 家治君 男爵菊池 武夫君
加藤敬三郎君 赤池 濃君
橋本辰二郎君 平沼 亮三君
山上 岩二君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、國債整理基金特別會計法中改正法律案、日程第四、明治三十九年法律第三十四號中改正法律案、日程第五、明治四十二年法律第九號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、松村大藏政務次官

國債整理基金特別會計法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十四日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

國債整理基金特別會計法中改正法律案
國債整理基金特別會計法中左ノ通改正ス
第二條第三項中「前項」ヲ「前二項」ニ改メ
同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ國債總額ノ計算ニ際シ割引ノ方法ヲ以テ發行シタル國債ニ付テハ發行價格ヲ以テ額面金額ト看做ス
第二條ノ三 國債ノ元金償還ニ充ツル爲前二條ノ繰入額ノ外割引ノ方法ヲ以テ發行シタル國債ノ前年度首ニ於ケル未償還分ノ發行價格差減額ヲ發行ノ日ヨリ償還ノ日迄ノ年數ヲ以テ除シタル額ニ相當スル金額ヲ毎年度一般會計又ハ

特別會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ
第二條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十四日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案
明治三十九年法律第三十四號中左ノ通改正ス
第九條但書ヲ削ル
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年法律第九號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十四日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

明治四十二年法律第九號中改正法律案
明治四十二年法律第九號中左ノ通改正ス
左ノ但書ヲ加フ
但シ割引ノ方法ヲ以テ發行シタル國債ニシテ買入ノ日ヨリ五年以内ニ償還期限ノ到來セサルモノニ付テハ發行價格

ニ命令ノ定ムル所ニ依リ發行價格ト額面金額トノ差額ノ一部ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ國債ノ債權金額ト看做シ買入銷却ヲ爲スコトヲ得
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員松村光三君演壇ニ登ル〕
○政府委員(松村光三君) 只今議題トナリマシタ國債整理基金特別會計法中改正法律案、明治三十九年法律第三十四號中改正法律案、及ビ明治四十二年法律第九號中改正法律案、提出ノ理由ヲ御説明致シマス、現下巨額ノ國債ノ發行ヲ必要トスル際ニ於キマシテ、其ノ一部分ヲ割引ノ方法ニ依ッテ發行シ得ルコトト致シマスルコトハ、國債消化ノ一助トナリマスルノミナラズ、他面其ノ所有者ニ於キマシテハ、國債ノ利子ヲ合併セ貯蓄スルコトトナリマシテ、時局對策上緊要ナル貯蓄獎勵ノ趣旨ニモ合致致シマスル等、頗ル時宜ニ適シタル方法ト考ヘラレマスルノデ、昭和十四年度以降ニ於テ發行スル國債ニ付キマシテ、其ノ一部分ハ此ノ方法ニ依ルコトト致シマスル處、之ガ爲ニ國債整理基金特別會計法、明治三十九年法律第三十四號及ビ明治四十二年法律第九號中ニ、ソレレノ若干ノ改正ヲ加フルノ必要ガアリマスルノデ、之ガ改正法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ國債整理基金特別會計法中改正法律案ハ昭和十四年度一般會計歳出入ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外三件ニ關聯致シ

マスルガ故ニ、此ノ特別委員ニ併託セラレシコトノ動議ヲ提出致シマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ニ申上ゲマスガ、今日程第二ダケ仰ッシャイマシタガ……

○子爵戸澤正己君 外二件ヲ附加ヘマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 承リマシタ
○子爵秋田重季君 賛成
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第六、職員健康保險法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、廣瀬厚生大臣

職員健康保險法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十四日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

職員健康保險法案
職員健康保險法

第一章 總則

第一條 職員健康保險ニ於テハ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス
保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ト同一ノ世帯ニ屬シ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者(以下世帯員ト稱ス)ノ疾病又ハ負傷ニ關シ保險給付ヲ爲スコトヲ得

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業

ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對價トシテ受クル俸給、給料又ハ賃金及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

俸給、給料又ハ賃金ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ノ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ拘ラズ時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 職員健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第七條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第八條 保險者又ハ保險給付ヲ受ケベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ム

ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一條第二項ノ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ世帯員又ハ世帯員タリシ者ノ戸籍ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他職員健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬並ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ行政官廳ニ委任スルコトヲ得

第十二條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徵收ス

第十三條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ職員健康保險組合ガ保險者ナル場合ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ市町村ニ對シ處分ヲ請求スルモ市町村ガ其ノ請

求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザル場合ニ限ル

前項但書ノ規定ニ依リ職員健康保險組合ガ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

保險者ガ第一項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ヲ請求シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十六條 本法ハ國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ使用セラルル者ニ之ヲ適用セズ

第十七條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業所ニシテ市又ハ主務大臣ノ指定スル町村(以下指定町村ト稱ス)ニ在ルモノニ使用セラルル者ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第二章 被保險者

一 物ノ販賣ニ關スル事業

二 金融又ハ保險ニ關スル事業

三 物ノ保管又ハ賃貸ニ關スル事業

四 媒介周旋ニ關スル事業

五 集金、案内又ハ廣告ニ關スル事業

六 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項第一號乃至第五號ニ掲グル事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ職員健康保險ノ被保險者トセズ

一 第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ニ使用セラルル者

二 健康保險ノ被保險者及健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ健康保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得ル者

三 一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル者

四 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十九條 健康保險ノ被保險者タル職員ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ職員ヲ事業所毎ニ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第十八條第三項第三號及第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラルル者ヲ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

一 第十八條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル事業ノ事業所ニシテ市又ハ

指定町村以外ノ地ニ在ルモノ

二 第十八條第一項ニ規定スル者ヲ常

時十人未満使用スル事業所ニシテ市

又ハ指定町村ニ在ルモノ

三 前二號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以

テ指定スル事業ノ事業所

第十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ

之ヲ準用ス

第二十二條 前條ノ認可アリタルトキハ

其ノ事業所ニ使用セラルル者ハ職員健

康保險ノ被保險者トス

第十八條第三項第二號乃至第四號ノ規

定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第十八條ニ規定スル事業所

ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル

トキハ其ノ事業所ニ付第二十一條ノ認

可アリタルモノト看做ス

一 第十八條第一項ニ規定スル者ハ常

時十人未満使用スル事業所ト爲ルニ

至リタルトキ

二 市又ハ指定町村以外ノ地ニ在ルニ

至リタルトキ

三 第二十一條第一項第三號ノ規定ニ

依リ指定スル事業ノ事業所ト爲ルニ

至リタルトキ

第二十四條 第十八條、第二十條及第二

十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業

務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第

十八條第三項第二號乃至第四號、第二

十條第二項若ハ第二十二條第二項ノ規

定ニ該當セザルニ至リタル日より其ノ

資格ヲ取得ス

第二十五條 第十八條、第二十條及第二

十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シ

タル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至

リタル日又ハ第十八條第三項第二號乃

至第四號、第二十條第二項若ハ第二十

二條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタ

ル日ノ翌日より其ノ資格ヲ喪失ス但シ

其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定

ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨ

リ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十六條 第二十條又ハ第二十二條ノ

規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主

ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者

ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムル

コトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四

分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者

ハ認可アリタル日ノ翌日より其ノ資格

ヲ喪失ス

第二十七條 第二十五條ノ規定ニ依リ被

保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ

日前二月以上引續キ被保險者タリシモ

ノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ引續シテ被

保險者ト爲ルコトヲ得

第二十八條 前條ノ規定ニ依ル被保險者

ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタ

ル日より六月ヲ經過シタルトキ其ノ他

勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至

リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十五條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル

被保險者ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用

ス

第三章 保險者

第二十九條 職員健康保險ノ保險者ハ政

府及職員健康保險組合トス

第三十條 政府ハ職員健康保險組合ノ組

合員ニ非ザル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十一條 職員健康保險組合ハ其ノ組

合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十二條 職員健康保險組合ハ事業主

及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者

ヲ以テ之ヲ組織ス

職員健康保險組合ハ法人トス

第三十三條 一又ハ二以上ノ事業所ニ付

被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事

業主ハ職員健康保險組合ヲ設立スルコ

トヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ

共同シテ職員健康保險組合ヲ設立スル

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ

員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコ

トヲ要ス

第三十四條 職員健康保險組合ヲ設立セ

ントスルトキハ組合員タル資格ヲ有ス

ル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得

規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

二以上ノ事業所ニ付職員健康保險組合

ヲ設立セントスル場合ニ於テハ前項ノ

同意ハ各事業所ニ付之ヲ得ルコトヲ要

ス

第三十五條 前二條ノ規定ニ於テ被保險

者トアルハ第十九條第一項又ハ第二十

一條第一項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ト

同時ニ職員健康保險組合ノ設立認可ノ

申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト

爲ルベキ者トス

第三十六條 主務大臣ハ一又ハ二以上ノ

事業所ニ付第十八條ノ規定ニ依ル被保

險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主

ニ對シ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ズ

ルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ職員健康

保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主

ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可

ヲ受ケベシ

第三十八條 職員健康保險組合ハ設立ノ

認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十九條 職員健康保險組合成立シタ

ルトキハ事業主及其ノ事業所ニ使用セ

ラル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第四十條 職員健康保險組合ノ規約ノ變

更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレ

バ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十一條 主務大臣ハ職員健康保險組

合ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ

爲サシメ、其ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ

變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令

又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 職員健康保險組合ノ役員ニ

欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員

ガ保險給付其ノ他其ノ執行スベキ職務

ヲ執行セザルトキハ主務大臣ハ官吏其

ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セ

シムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要

スル費用ハ職員健康保險組合ノ負擔ト

ス

第四十三條 主務大臣ハ職員健康保險組

合ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、規約

若ハ主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シ

又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト

認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ

狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリ

ト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ

解散シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコト

ヲ得

第四十四條 解散ニ因リテ消滅シタル職

員健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十五條 本法ニ規定スルモノノ外職員健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他職員健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 同時ニ二以上ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付及保健施設

第四十七條 被保險者ガ其ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養ヲ受ケタルトキハ療養費ヲ支給ス

前項ノ療養費ヲ支給スベキ療養ノ範圍竝ニ療養費ノ額及支給方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

保險者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養費ノ支給ニ代ヘテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ヨリ費用ノ一部ヲ徴收スルコトヲ得

第四十八條 療養費ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ療養ヲ始メタル日より起算シ六月ヲ經過シタル後ノ療養ニ付テハ之ヲ支給セズ

主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超ニ尙六月以内ノ療養ニ付繼續シテ療養費ヲ支給スルコトヲ得但シ其ノ療養ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル

第四十九條 被保險者ガ療養ノ爲引續キ

勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日より起算シ三月ヲ經過シタル日より其ノ後ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ五十二ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ日給ヲ受クル被保險者ニ付テハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日より起算シ十日ヲ經過シタル日より之ヲ支給ス

前項ノ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

保險者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金ノ支給ノ待期ヲ短縮シ又ハ廢スルコトヲ得

第五十條 傷病手當金ノ支給期間ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シテハ三月ヲ以テ限度トス但シ日給ヲ受クル被保險者ニ付テハ六月ヲ以テ限度トス

第四十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養費ノ支給ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第五十一條 被保險者ガ死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ報酬月額ノ一分分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ三十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ三十圓トス

被保險者ガ死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受ケベキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ

前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十二條 被保險者ガ分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ五十二ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十三條 保險者ハ被保險者ヲ產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スベキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十四條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非ザレバ之ヲ爲サザルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セズ

第五十六條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル被保險者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得但シ被保險者ノ資格喪失ノ日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ場合ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得ザルモノト爲スコトヲ得

第五十七條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日後三月以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪

失シタル日後三月以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第五十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ之ヲ準用ス

第五十八條 被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ベカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十九條 前三條ノ規定ニ拘ラズ被保險者タリシ者ガ健康保險又ハ船員保險ノ被保險者ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險給付ヲ爲サズ

第六十條 保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定スル保險給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セズ

第六十二條 前條ニ掲グル者ガ其ノ受クルコトヲ得ベカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハザリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第六十三條 被保險者又は被保險者タリ

シ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ保險給付ヲ爲サズ

第六十四條 被保險者ガ闘争、泥酔若ハ

著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十五條 被保險者又ハ被保險者タリ

シ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ其ノ期間ニ係ル保險給付ハ之ヲ爲サズ
一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
二 本法施行區域外ニ在ルトキ
三 矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ入院セシメラレタルトキ
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ
他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ診療所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養費ヲ支給セズ

第四十九條第二項及第五十三條第二項ノ規定ハ前項ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス

被保險者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ第一項各號ノ一ニ該當スル場合ト雖モ第一條第二項ノ保險給付ヲ爲スコトヲ妨グズ

第六十六條 保險者ハ正當ノ理由ナクシ

テ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シ之ニ支給スベキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十七條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ

行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケン

トシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十八條 保險者ハ必要アリト認ムル

トキハ保險給付ヲ受ケタル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得
保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得
第六十九條 保險者ハ事故ガ第三者ノ行為ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス
第七十條 保險者ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲左ノ施設ヲ爲スコトヲ得
一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
二 健康診斷ニ關スル施設
三 保養ニ關スル施設
四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關スル施設
第七十一條 保險者ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ非ザル者ヲシテ保險者ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得
保險者ハ其ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得
第七十二條 第六十三條、第六十五條第一項及第二項、第六十八條並ニ第六十九條ノ規定ハ世帯員ニ之ヲ準用ス
第五十六條ノ規定ハ第一條第二項ノ保險給付ニ之ヲ準用ス

第五章 費用ノ負擔

第七十三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ職員健康保險事業ニ要スル費用ノ一部ヲ負擔ス

第七十四條 保險者ハ職員健康保險事業

ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス
保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十五條 被保險者及被保險者ヲ使用

スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス
第七十六條 少額ノ報酬ヲ受ケル被保險

者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スベキ割合ヲ増加スルコトヲ得
第七十七條 職員健康保險組合ハ第七十

五條ノ規定又ハ前條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スベキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増加スルコトヲ得
第七十八條 被保險者ガ第六十五條第一

項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ
第七十九條 事業主ハ其ノ使用スル被保

險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第八十條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十一條 保險給付ニ關スル決定ニ不

服アル者ハ第一次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ第二次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ申斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス
第八十二條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵

收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ職員健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依リ行政裁判所ト看做ス
第八十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵

收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二次職員健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ
第八十四條 本法ニ規定スルモノノ外職

員健康保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八十五條 審査ノ請求、訴ヲ提起又ハ訴

願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ヲ提起ニ付テハ民事訴訟法第五百八十八條第二項及第五百九十九條ノ規定ヲ準用ス
第七章 罰則

第八十六條 正當ノ理由ナクシテ第十條

ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第九條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十九條 第八十七條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條 職員健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主ガ正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ヲ遲延シタル期間其ノ負擔スベキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十一條 職員健康保險組合ガ第四十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ保險給付、保健施設及費用ノ負擔ニ關スル規定並ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣廣瀨久忠君演壇ニ登ル）

○國務大臣（廣瀨久忠君） 只今議題トナリマシタ職員健康保險法案提出ノ理由ヲ説明致シマス、我ガ國現下ノ情勢ニ鑑ミマシテ、國民ノ健康ノ保持増進ヲ圖ルコトノ緊要デアルコトハ申ス迄モナイ所デアリマス、現在我ガ國ニ於ケル健康保險制度ト致シマシテハ、御承知ノ如ク工場、鑛山等ノ勞働者ニ對シテ健康保險ノ制度ガアリマス、又此ノ外ニ農山漁村居住者、中小商工業者等ニ對シマシテ、國民健康保險ノ制度ガ實施セラレテ居ルノデアリマスガ、都市ノ給料生活者、商店使用人等ニ付キマシテハ、マダ保護ノ施設ガ講ゼラレテ居ラナイノデゴザイマス、然ルニ是等ノ被働者ハ、經濟的ニモ其ノ保護ヲ必要トスル程度ニ於キマシテ、工場、鑛山等ノ勞働者ト異ル所ガナイノミナラズ、其ノ健康狀態ニ照シマシテモ、之ガ健康ノ保持増進ヲ圖ルコトノ必要ハ、國民健康ノ上カラ誠ニ緊切ナルモノガアルノデゴザイマス、仍テ是等ノ者ニ對シマシテ、適切ナル健康保險ノ制度ヲ創設致シマシテ、其ノ健康ノ保持増進ヲ圖ルト共ニ、生活ノ安定ニ資スルコトト致シマシテ、茲ニ本法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長（伯爵松平賴壽君） 戶澤子爵ノ動議

○議長（伯爵松平賴壽君） 只今議題トナリマシタ職員健康保險法案ハ、重要ナル法案デアリマスガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君） 戶澤子爵ノ動議

○議長（伯爵松平賴壽君） 戶澤子爵ノ動議

○議長（伯爵松平賴壽君） 戶澤子爵ノ動議

ニ御異議コザイマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君） 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス（丸龜書記官朗讀）

職員健康保險法案特別委員

公爵廣司 信輔君 侯爵蜂須賀正氏君

伯爵堀田 正恒君 子爵松平 保男君

子爵富小路隆直君 子爵實吉 純郎君

織田 萬君 小原 直君

河井 彌八君 男爵小池 正晃君

河原田稼吉君 下村 宏君

男爵大森 住一君 男爵園田 武彦君

若尾 璋八君 磯野 庸幸君

濱口儀兵衛君 松岡 潤吉君

○議長（伯爵松平賴壽君） 日程第七酪農業調整法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、櫻内農林大臣

酪農業調整法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十四日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

酪農業調整法案

酪農業調整法案

第一條 本法ハ牛乳ノ需給ノ圓滑及取引ノ公正ヲ圖リ並ニ牛乳ノ生産業及乳製品ノ製造業ヲ調整シ以テ畜産ノ健全ナル發達ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 行政官廳ノ指定スル地域内ニ於テ牛乳ノ生産ヲ業トスル者ノ組織スル法人ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ牛乳

ノ販賣ニ關スル施設ヲ行フ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ届出ヲ爲スベシ

第三條 行政官廳牛乳ノ取引上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ法人ニ對シ牛乳ノ販賣ノ統制ニ關スル決定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ同條ノ地域内ニ於テ牛乳ノ生産ヲ業トスル者ニ對シ同條ノ法人ノ統制ニ關スル決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四條 牛乳ノ販賣ヲ業トシ又ハ乳製品ノ製造事業ヲ爲ス者行政官廳ノ指定スル地域内ニ於テ牛乳ノ生産ヲ業トスル者又ハ其ノ組織スル法人ト繼續シテ牛乳ノ取引ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ價格、數量其ノ他牛乳ノ取引ニ關スル事項ニ付行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

行政官廳牛乳ノ取引上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲メ必要アリト認ムルトキハ前項ノ取引ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 勅令ヲ以テ定ムル乳製品ノ製造事業（製酪業）ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場ノ位置、製品ノ種類及數量其ノ他其ノ事業ニ關スル事項ニ付行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第六條 前條ノ許可ヲ受ケタル者製酪業者ハ製酪業ノ改良發達及統制ヲ圖ル爲メ製酪業者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ

製酪業者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ

定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ製酪業組合ヲ設立スルコトヲ得

第七條 製酪業者製酪業組合ヲ設立セザル場合ニ於テ行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ製酪業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ製酪業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ設立ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第八條 製酪業組合ハ法人トシ全國ヲ通ジ一個トス

製酪業組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第九條 製酪業組合ニハ所得税及營業收益稅ヲ課セズ

第十條 製酪業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 乳製品ノ製造、販賣及出荷ニ關スル統制

二 乳製品ノ販賣及出荷ニ關スル共同施設

三 乳製品ノ検査

四 製酪業ノ經營ニ必要ナル物ノ供給

五 其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル事業

製酪業組合前項第一號ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 製酪業組合ハ設立ノ認可アリタル時成立ス

製酪業組合ノ設立アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

製酪業組合ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條 製酪業組合ノ設立アリタルトキハ製酪業者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條 製酪業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十四條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ製酪業組合ノ組合員ニ對シ第十條第一項第一號ノ統制ニ關スル組合ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條 行政官廳ハ製酪業組合又ハ其ノ組合員ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製酪業組合又ハ其ノ組合員ノ事務所、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十六條 製酪業組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解任

三 組合ノ事業ノ停止

四 組合ノ解散

第十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外製酪業組合ノ設立、登記、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 行政官廳ハ第四條第一項又ハ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ許可ヲ受ケタル事項ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ前項ニ規定スル者ノ事務所、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十九條 第五條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズ又ハ許可ヲ受ケタル事項ニ依ラズシテ製酪業ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第四條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズ又ハ許可ヲ受ケタル事項ニ依ラズシテ取引ヲ爲シタル者

三 第四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項又ハ第十八條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十五條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第十五條第二項又ハ第十八條第二項ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第二十二條 法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條又ハ第二十一條第一號若ハ第二號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第二十三條 第十九條、第二十條並ニ第二十一條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ法人ノ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタルトキ

二 第十六條第三號ノ規定ニ依ル處分

ニ違反シ事業ヲ停止セザルトキ
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ第四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ取引ヲ爲ス牛乳ノ販賣ヲ業トシ若ハ乳製品ノ製造事業ヲ爲ス者若ハ之ヲ承繼シタル者又ハ本法施行ノ際現ニ第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ製酪業ヲ爲ス者若ハ之ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ第四條第一項又ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ引續キ其ノ取引ヲ爲シ又ハ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第四條第一項又ハ第五條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

〔國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(櫻內幸雄君) 只今議題トナリマシタ酪農調整法案ノ提案理由ヲ御説明致シマス、近時我ガ國ノ酪農業ハ、長足ノ進歩發達ヲ遂ゲテ參ツノデアリマシテ、酪農生産物ハ逐年増加致シマスル國內需要ヲ優ニ充タスノミナラズ、更ニ進ンデ其ノ一部ヲ練乳「バター」等トシテ南洋「ヨーロッパ」等ノ海外市場ニ輸出スルニ至ツタノデアリマス、併シナガラ一面從來ノ酪農業ニ關スル制度ニ付キマシテハ、十分ナラザルモノガアリマシテ、牛乳生産業者ト乳製品製造業者トノ間、或ハ當業者相互ノ間ニ於テ、

徒ラナル摩擦ヲ惹起シ、爲ニ動モスレバ牛乳ノ需給ノ圓滑及ビ取引ノ公正ヲ期シ難キ憾ガアリ、又乳製品ノ製造販賣ニモ種々支障ヲ生ジツ、アリマシテ、之ガ爲一層伸ビルベキ我ガ國酪農業ノ發達ヲ阻害シテ居ル現狀ニアルノデアリマス、從ヒマシテ是等ノ關係ヲ調整致シマシテ合理化シ、一層斯業ノ進展ヲ圖リ、豐富且低廉ナル酪農生産物、殊ニ輸出向乳製品ノ生産ヲ促進致シマスコトハ、農家經濟ノ安定ヲ期スル所以デアリマシテ、延イテハ國民體位ノ向上ノ爲ニモ、亦國際貸借改善ノ爲ニモ、誠ニ緊要ト認メラル、ノデアリマス、右ノ趣旨ニ基キマシテ此ノ度酪農調整法案ヲ制定セムトスルノデアリマスガ、本案ノ内容ハ牛乳生産業者ト乳製品製造業者トノ雙方ニ互リ團體ヲ整備シ、其ノ活動ヲ促進致シマスルト共ニ、之ニ對シ行政官廳ガ適當ナル監督ヲ加ヘマシテ、牛乳ノ需給ノ圓滑及取引ノ公正ヲ圖リ、以テ畜産ノ健全ナル發達ヲ期セムトスルモノデアリマス、幸ニシテ本案成立ヲ見マスルナラバ、政府ガ從來ヨリ實施シテ參リ、又今後新タニ設ケマスル酪農關係ノ諸施設ト相俟チマシテ、我ガ國酪農業ノ進展ノ上ニ裨益スル所頗ル大ナルモノガアルト信ズルノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑ガナケレバ本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔丸龜書記官朗讀〕

酪農調整法案特別委員
侯爵西郷吉之助君 子爵米津 政賢君
男爵周布 兼道君 男爵岩村 一木君
有賀 光豐君 岡田 文次君

瀧川 儀作君 油井 德藏君
水野甚次郎君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第八、明治四十五年法律第二十三號中改正法律案、日程第九、地方鐵道法中改正法律案、日程第十、軌道法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、委員長堀田伯爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十三日
委員長 伯爵堀田 正恒
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

地方鐵道法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十三日
委員長 伯爵堀田 正恒
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

軌道法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十三日
委員長 伯爵堀田 正恒
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔伯爵堀田正恒君演壇ニ登ル〕

○伯爵堀田正恒君 只今上程セラレマシタ明治四十五年法律第二十三號中改正法律案ニ對シマスル特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員會ニ併託ニ相成ツタノデアリマス、委員會ハ前後五回ニ互リマシテ開會致シマシタ、本案ノ骨子ハ樺太ノ封鎖炭田ヲ人造石油製造事業會社ニ開封スル場合ハ、競争入札ノ原則ニ依ラズ行政官廳ニ於テ適當ニ之ヲ行ハムトスルモノデアリマシテ、最初ニ政府ノ原案ヲ説明ガザイマシタガ、是ハ過日本會議議デ説明ガザイマシタカラシテ省略ヲ致シマス、本案ハ極メテ簡單ナ改正法案デアリマスケレドモ、改正ノ結果ハ人造石油事業ノ促進上鈔カラズ關係ヲ有シマスルノデ、封鎖炭田ニ關スル點バカリデナク、燃料政策全般ニ互リ質疑ガアツタノデアリマスガ、今其ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマスレバ、第一ニ、人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケタル會社ガ二ツ以上アル場合ニ、其ノ會社間ニ競願トナツタナラバ之ヲドウスルカ、政府ハ、運用ニ依ッテ競願ヲ避ケシムル方法ヲ講ズルコトト致シタイト云フ答辯デゴザイマシタ、第二ニ、改正ノ規定ニ依リ、樺太石炭ヲ利用シ今後進出ヲ豫想シ得ル人造石油會社如何、之ニ對シマシテ政府ハ、帝國燃料興業會社ヲ樺太ニ誘致シテ、相當大規模ニヤラセタイ、而シテ民間會社モ亦資本的ニ結合シテヤラシタイ、併シナガラ何處迄モ帝國燃料株式

會社ヲ母體トシテヤラセタイ、斯ウ云フ答
辯デゴザイマシタ、第三ニ、帝國燃料ノ樺
太ニ於ケル事業計畫ニ付テ質問ガゴザイマ
シタ、之ニ對シマシテ政府ハ、第一期計畫
トシテ年產百二十萬「トン」ノ採炭ニ依リ、
二十三萬「キロリットル」ノ石油ヲ製造スル
豫定デ、之ニ要スル資金ハ一億二千萬圓位
デアルガ、差當リ四千萬圓程度ノ子會社ヲ
作り、炭坑ノ開發並ニ工場其ノ他ノ施設ヲ
爲シ、昭和十八年頃ニハ豫定ノ通り低溫乾
溜法、「タール」水素添加法、及ビ直接液化
法ノ三方法ニ依リ、全工場ノ運轉ヲ爲ス豫
定デアルト云フ答辯デゴザイマシタ、第四
ニ、採掘料ノ決定方法如何ト云フ質問ガア
リマシテ、政府ハ炭坑ノ位置、鑛區面積、
炭質、炭量、炭價、生産費、採炭高、起業
費等ヲ十分調査シ、商工省トモ協議シ、拓務
大臣ノ認可ヲ受ケテ決定シタイト云フコト
デアリマシタ、採掘料ニ付キマシテハ種々
細カイ御質問ガアリマシタガ省略シマ
ス、尙液體燃料關係ニ付キマシテハ、物動
計畫ニ關シマシテ、秘密會ノ下ニ企畫院總
裁ヨリ詳細ナル御説明ノアツクコトヲ御報
告申上ゲマス、其ノ他樺太ニ於ケル石炭、
石油事情、鐵道、港灣施設ノ計畫、採掘料
ノ收入ノ使途、油田調査ノ狀況、石油試掘
ニ對スル政府ノ方針、我が國ニ於ケル液體
燃料政策、液化事業ノ現況及ビ將來ノ計畫等
ニ付キマシテ御質問ガゴザイマシタガ、全
部速記録ニ讓リマス、質問ガ終リマシテ討
論ニ入り、二名ノ委員ヨリ同一ノ意味ノ御
意見ガゴザイマシタ、即チ採掘料ノ價格決
定ニ當ツテハ、商工省ト慎重ニ協議シ、以
テ公正妥當ナル價格ヲ決定スルヤウ、特ニ
注意シテ貴ヒタイト云フ御意見ノ下ニ、贊

成ノ意思ヲ表示サレマシタ、外ニハ御意見
ガゴザイマセデ、採決ニ入り、全會一致
可決スベキモノト決シマシタ、次ニ只今上
程サレマシタ地方鐵道法中改正法律案及軌
道法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過並ニ
結果ヲ御報告申上ゲマス、是等ノ法案モ同
ジク朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員ニ
併託ニナリマシテ、委員會ハ前後三回開會
致シマシタ、是等ノ法案ノ内容ヲ申上ゲマ
ス、現行地方鐵道法ハ商法ノ特別規定トシ
テ、地方鐵道會社及軌道會社ニ對シ株金全
額拂込前ト雖モ主務大臣ノ認可ヲ受ケ、線
路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲メ、資
本ヲ増加シ得ルコトヲ認メ、又利益配當ニ
關シマシテ、所謂後配株ヲ發行シ得ルコト
トシテ居ルノデアリマスガ、改正商法ハ一
般ノ同様にコトヲ認メマシタノデ、右特
別規定ヲ廢シマシテ、地方鐵道會社及軌道
會社モ商法ノ一般ノ規定ニ從ヒ、主務大臣
ノ認可ヲ要セズ自由ニ爲シ得ルヤウニシタ
ノデアリマス、又主務大臣ハ現在ノ交通機
關ノ發達ノ實情ニ鑑ミ、必要ニ應ジ自動車
トノ連絡運輸ヲモ命ジ得ルコトトシ、又交
通事業ノ機能ノ増進ヲ圖ル爲メ、運賃其ノ他
ニ關スル運輸協定ヲモ命ジ得ルコトトシタ
ノデアリマス、又地方鐵道又ハ軌道ノ買收
又ハ補償ニ際シ交付スベキ買收代價又ハ補
償金ハ、五分利附國債證券ヲ以テ交付スル
コトニナツテ居タルノデアリマス、今日
ハ此ノ種國債證券ガ著シク減少シマシタノ
デ、隨時金利ノ狀態ニ應ジテ發行セラル、
モノヲ以テ交付シ得ルコトトシタノデアリ
マス、又陸運ニ關スル鐵道大臣ノ權限ガ増
大スルニ伴ヒ、中央ノ事務モ著シク繁雜ト
ナルニ至ツタノデ、事務簡捷ノ趣旨ヲ以テ主

務大臣ノ權限中主トシテ營業方面ニ屬スル
モノヲ、地方鐵道局長ニ委任スルコトヲ得
ルコトトシタノデアリマス、又地方鐵道ニ
對スル營業繼續補償ノ際ノ補給金ノ限度百
分ノ七ヲ百分ノ五ニ改メタルノデアリマス、
質問ノ要點ヲ申上ゲマス、軌道法ハ馬車鐵
道或ハ其ノ他小サイ鐵道ヲ監督スル爲メ
起ツタ法規デアル、之ニ反シテ地方鐵道法ハ
日本鐵道、山陽鐵道、關西鐵道等、比較的
大キナ鐵道ヲ監督スル爲メ起ツタ法規デア
ル、然ルニ今日ノ狀態ハ何レガ軌道カ、地
方鐵道カ誠ニ不明ニナツテ居ル、例ヘバ東京
ノ地下鐵道ハ地方鐵道、大阪ノ地下鐵道ハ
軌道デアアル、又大阪鐵道、阪和鐵道ハ地方鐵
道デアアル、阪急、阪神ハ軌道デアアル、サウ
シテ軌道ハ軌道法ニ依リテ監督ハ鐵道大臣、
內務大臣デアリ、地方鐵道ハ地方鐵道法ニ
依リテ監督ハ鐵道大臣トナツテ居ル、誠ニ複雑
多樣デアアル、今日ニ於テハ最早地方鐵道、
軌道ノ區別ヲ設ケル必要ガナイト考ヘルガ
政府ハドウ考ヘルカ、政府ハ交通行政ニ付
テハ隨分努力シテ居ルガ、監督行政ニ付テ
ハ十分デナイヤウデアアルガ、之ヲ統一スル
考ハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ
對シテ內務大臣、鐵道大臣カラ同意味ノ御
答辯ガゴザイマシタ、監督行政ニ付テモ是
非統一シテ行キタイ、併シナガラナカク、
ムツカシイ問題デアアルカラシテ、十分研究
シテ努力シタイ、斯ウ云フ御答辯デゴザイ
マシタ、又大陸交通政策ト云フカ、日滿支
ノ交通政策中、最重要ナモノハ鐵道政策
デアルト思フガ、政府ハドウ云フ風ニヤツテ
居ルカ、日滿支運輸連絡上、又輸送力増進
ノ意味カラシテ、政府ハ東京・下關間ニ廣軌
線ヲ設ケムトスルヤウニ聞イテ居ルガ、果

シテサウデアアルカ、斯ウ云フ御質問ガアリ
マシタ、日滿支ノ鐵道政策ニ付テハ、政府
トシテハ萬遺憾ナキヤウ努力シテ居ル、鐵
道ノ軌幅ニ付テモ非常ニ苦心シテ、ソレモ、
間ニ合セテヤツテ居ル、東京・下關間ニ於ケ
ル人的、物的兩方面ノ輸送力増進ニ付テ
ハ、特ニ頭ヲ悩マシテ居ル、愈々大陸經營
ニ乘リ出スカラニハ、單ニ部分的ノ改良、
車輛ノ増加等デハ間ニ合ハナイ、十分餘裕
アル計畫ヲ立テテ行カナケレバナラヌト思
フ、政府ハ東京・下關間ニ廣軌線ヲ設ケルト
云フコトヲ定メテハ居ラナイ、白紙デア
ルガ、併シ省内デモ熱心ニ考究シツ、アリ、
又審議會ニ於テモ御研究ヲ願ツテ、善處シテ
行キタイト思ツテ居ル、斯ウ云フ御答辯デア
リマシタ、次ニ現今ノ輸送力不足ニ對スル
對策如何ト云フ御質問ガアリマシタ、政府
ハ、事變下軍事輸送ニ對應スル爲メ、貨物運
送ヲ先ニシテ旅客運送ヲ後ニシタ爲メ、一
般旅客ニ不便ヲ生ゼシメタコトハ誠ニ遺憾
デアアル、併シナガラ漸次軍事輸送モ整備シ
テ來、又一方今迄機材ガ不足シテ居ル爲メ、
車輛ヲ思フヤウニ造ルコトガ出來ナカッタ
ケレドモ、段々出來ルヤウニナリ、此ノ二
月頃ニハ相當出來ルヤウニナツタ、昭和十四
年度ニ於テハ機關車五百二十二、電氣機關
車十七、客車四百四十八、電車六十、貨車
一萬二千五百五十七、計一萬三千三百四臺出來
豫定デアツテ、來年ニハ相當量増加ガ出來ル
見込デアアル、又終夜運轉迄シテ不足ヲ補ツテ
見タラドウカト云フ御意見モアルガ、果シ
テ終夜運轉シテ需要ガアルカナイカ疑問デア
アル、是ハ民間ノ交通事業者トモ能ク相談
シテ善處シテ行キタイ、團體旅行ハ成ルベ
ク遠慮シテ貴ヒ、又遊覽ノ爲ニ便宜ヲ計ツテ

居タノヲ是モ止メテ、一般旅客ニ充ツルヤウニシテ居ル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、其ノ他陸上交通事業調整法ノ實績竝ニ今後ノ方針、又省營自動車ノ經營方針等ニ詳細ナル御質問ガアリマシタガ、速記録ニ譲リマス、討論ニ入りマシテ一委員ヨリ、事變下輸送力不足ハ已ムヲ得ナイトスルケレドモ、長期戦ニ入ッタ今日、銃後ノ護タル國民ガ其ノ爲ニ受ケル不便餘リニ大デアッテ、活動セムトシテ其ノ活動ヲ殺ガレルコトハ事變ニ影響スル所甚大デアラシテ、政府ハ輸送力不足ニ對スル對策ニ付テハ、慎重考慮ヲ拂ッテ貰ヒタイト云フ希望ヲ付ケマシテ贊成セラレマシタ、又一委員ヨリ今回ノ改正ハ已ムヲ得ナイと思フガ、不十分デアル、未ダ根本的改正ノ方法ハアリハシナイカ、例ヘバ最早ヤ今日ハ地方鐵道、軌道ノ區別ハ不要デアラカラシテ、地方鐵道法、軌道法ヲ一本ニスルト云フガ如キ方法ハアリハシナイカ、故ニ政府ハ將來ニ於テ根本的改正ヲ爲スコトヲ考ヘテ貰ヒタイト云フ希望ヲ述べラレマシテ兩案ニ贊成セラレマシタ、採決ニ入りマシテ全會一致可決スベキモノト決シマシタ、右御報告申上ゲマス

議ニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナレバ全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵植村家治君 贊成
○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 此ノ際、先日ノ土方寧君ノ質疑ニ對シマシテ總理大臣及文部大臣ノ御答辯ガアリマス、此ノ際之ヲ許可致シマス、文部大臣
〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 此ノ場合去ル七日ノ本會議ニ於キマシテ、土方博士ヨリ内閣總理大臣及文部大臣ニ對シテノ御質

疑ニ對シマシテ、便宜私ヨリ御答ヘ致シテ置キタイト存ジマス、御示ナリマシタ軍人ニ賜リタル勅諭、教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書ハ、何レモ常ニ臣民ノ拳々服膺致シマシテ、實踐ニ努メルベキモノデゴザイマス、教育ニ於テモ特ニ此ノ點ニ力ヲ致シマスルコトヲ切要ト考ヘマシテ、常ニ此ノ點ニ留意致シテ居ル次第デアリマス、而シテ常ニ國民精神ノ剛健ニ留意致シマシテ、浮華放縱ヲ付ケテ恭儉勤敏、各業ニ服シ、產ヲ治メ、醇厚中正ノ風俗ヲ涵養致シマシテ、假ニモ荒怠スルコトヲ相誡メマシテ、殊ニ現下ノ時局ニ於テハ是等ノ點ハ最モ肝要ト存ジマシテ、從ッテ是等ニ關シテ假ニモ、御聖旨ニ背クヤウナコトハ嚴ニ誡メネバナラスト存ジマス、御指摘ノ競馬法中ノ勝馬投票券ノ發賣ニ付キマシテハ、其ノ實施ニ當ッテ慎重ナル注意ヲ致シマスルナラバ、馬政上ヨリノ見地モアルコトデアリマス、此ノ程度ニ於テハ其ノ運用宜シキヲ得マスルナラバ、聖旨ニ背クモノト存ジ得ラレナイノデゴザイマス、併シナガラ兎角其ノ弊ニ陥リ易キ點等ニ付キマシテハ、教育上ニ於テモ將又行政上ニ於テモ、十分ナル注意ヲ加ヘマシテ、假ニモ誤リナキ様努力致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、以上ヲ以テ御答ト致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 平沼總理大臣〔國務大臣男爵平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(男爵平沼騏一郎君) 土方君ノ御質問ニ對スル御答辯ハ、只今文部大臣ヨリ詳細申シマシタ通りデゴザイマス、私ニ於キマシテモ只今文部大臣ノ御答ヲ致シマシタ通りト信ジテ居リマス、左様御承知ヲ願ヒマス
〔土方寧君演壇ニ登ル〕
○土方寧君 我が一週間程前ニ、馬券附ノ競馬ヲ公許スルノハ善クナイト云フ意味ノ質問ヲ致シマシタ、今文部大臣ハ勝馬投票券ト仰シヤイマシタガ、現行ノ競馬法ニハサウナッデ居リマスガ、馬券ト云フモノガ如何ニモ不評判ニナッテ、戊申詔書ヲ拜セラレタ、其ノ時ト同ジ名前前デヤ宜クナイカラト云フノデ勝馬投票券トナッタノデアリマスガ、世間デヤ皆馬券ト云ッテ居リマス、私ノ質問ハ文部大臣モ御述ニナッテ居ルヤウニ、軍人ニ賜ッタ勅諭、教育勅語、戊申詔書、大正ノ震災後ノ國民精神作興ニ關スル勅諭、此ノ四ツノモノヲ引用シマシテ、之ヲ一貫セル聖旨ニ反スルモノデヤナイカト云フ意味ノコトヲ質問シタノデアリマス、サウ云フモノヲ引用シテ質問シタノデアリマスカラ、無論ドナタデモ皆暗記シテオイデニナル譯デモアリマスマイ大體趣意ダケハ……、デカラ即答ハ促サナカッタ、一週間後ノ今日初メテ御答辯ヲ得マシタ、無論總理大臣モ、文部大臣モ、政務多端デ御忙シイデアリマセウケレドモ、私ハ是ハ實ニ重大ナ問題ダト思ヒマス、是ハ聖旨ニ反シテ居ハシナイカ否ヤト云フ問題デアリマス、十分ニ一週間御熟慮ニナッテ御答辯ト考ヘマス、文部大臣ハ前半ノ仰シヤッタコトハ其ノ通りデアアル、尤モナコトデアリマス、其ノ實際ノコトガ問題ニナッテ居ル、適用ノ點ニ付キマシテハ頗ル曖昧デアリマス、此ノ程度ニ於テハ左程害ガナイと思ッテ居リマス、總理大臣ハ何ニモ仰シヤラナイ、文部大臣ノ通りデ宜シイ、斯クノ如キ御答辯ヲ得マスト云フコトハ誠ニ失望致シマシタ、遺憾至極ニ

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナレバ三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵植村家治君 贊成
○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動

存ジマス、私ガ望ム通りノコトヲ申シマスナラバ、前回引用シマシタ勅語、勅諭等ノ字句ヲ引用シテ、其ノ解釋適用ニ付テ詳論シタイノデアリマスガ、左様ニスルコトハ幾多ノ重要ナ議案ヲ目前ニ控ヘ、會期切迫ノ折デアリマスカラ差控ヘマス、文部大臣ノ御答辯ハ如何ニモ抽象的ノコトデアアル、是デハドウモ一般ノ民衆ニ本心ノ在ル所、御趣意ノアル所ハ分ラナイト思ヒマスカラ、具體的ノ場合ヲ想定シマシテ、斯ウ云フ場合ニハドウナルカト云フコトヲ重ネテ御尋シタイ、例ヘバ世間ニハ随分競馬好きノ人多イヤウデアリマシテ、競馬ガアルト其處ヘ行ク鐵道ナドト云フモノハ混雜シテ、普通ノ乘客ナドハ乗レヌト云フ有様ニナツテ居リマス、如何ニ競馬ニ行ク人多イカニ分ル、其ノ中ニハ唯觀ル人モ多數デアリマセウ、ケレドモ随分多クノ人ガ所謂馬券ヲ買フト云フ趣旨デ行ク、サウ云フ者モ世間デハ競馬狂トデモ言ヒマセウ、ソレデ茲ニ或家庭ノ主人ニ所謂競馬狂ノ一人ガアル、競馬ガアル毎ニ行ク、業ヲ休ンデ行ク、偶ニハ儲カラルシイ、サウ云フ時ニハ酔ッ拂ッ遅ク歸ツテ來ル、何レマ同行ノ者ト一緒ニ酒デモ飲ミニ行ツンデセウ、惡銭身ニ著カズト云フ譯デアリマス、儲カッタ時ニハ一般ニハ家ニハ金ヲ持ッテ歸ラス、處ガ多クノ場合ハ失敗シテ、持ッテ行ツタ金ヲ無クシテシマフ、場合ニ依ルト借金シテシマツテ來ル、サウ云フ時ニハ酒飲ミニモ行ケマセスカラ、情氣返ッテ家ニ歸ッテ來ル、妻君ガドウデスカト云フ、失敗シタ、大變ニ情氣テ居ル、持ッテ居タオ金ハ使ツテ足ラヌカラ又他人カラ金ヲ借りテ來タ仕末ダト云フ、實ニ困リマス、ソレダカラ豫デカラ申シマス、業ヲ休ンデ

競馬ニ金ヲ持ッテ行ッテ、無クシテ來ルト云フヤウナコトデハ家ガ立行キマセヌ、先ヅ差當リ月末ノ拂ヒヲドウシマスト言フテ、泣イテ、ドウカ斯ウ云フコトハ良クナイカラ止メテ下サイト言ッテ訴ヘル、處ガ競馬狂ノ主人ハ失敗シテ歸ッテ、宜イ加減氣ヲ惡クシテ居ル所ヘ女房カラ誠メラレルモノデスカラ、疳癪ヲ起シテ、默レト云フ譯デ、妻君ハ泣イテ誠メラレドモ聞キマセヌ、處デ小學校ヘ行ッテ居ル子供ハ、夫婦ガサウ云フ問答ヲシテ居ルノヲ聞キマシテ、心配デナラナイ、其ノ心配ノ餘リ學校ヘ行キマスト、先生ニ家ノ父サシハ斯ウ云フ譯デシタノデ、オ母サンガオ止メナサイト言ッタガ背キマセヌ、ドウモ兩親ガサウ云フコトデ誠ニ宜クナイカラ私ハ大變困リマス、ドウシタモノデセウ、オ母サンガ、良クナイカラオ止メナサイト仰ッシヤルノガ正シイノカ、ソレトモ許シテアルノダカラ構フモンカト云ツテ、オ止メナサイト父サシノ方ガ宜イノデセウカ、ドチラガ正シイノデセウカト聞クト、折角ノコトダカラ私ハ御話シナケレバナリマセヌガ、豫メ話シテ居ルノニ、斯ウ云フ馬券附ノ競馬ト云フヤウナモノハ賭博ニ似寄ッタモノ、賭ケ事ニ似寄ッタモノデ、宜クナイト云フコトハ幾多ノ勸諭、勸諭ニアルコトデ、教育勸諭ニモ「恭儉己レヲ持シ」トアル、タツタ四字デスガ非常ニ深い意味ガアル、此ノ字句ニ付テモ豫メ學校デ教ヘタル通りデアリマス、ドウモオ母サンガ、良クナイコトハオ止メナサイト言フノガ正シイ、オ父サンガ惡クナイト云ツテ背カナイノハ宜クナイ、折角ノ御尋ダカラサウ答ヘル外アリマセヌガ、親ニ向ッテ強意見ヲスルノハ穩カデナイカラ、御歸リニ

ナツタラ、心配ノ餘リ先生ニ伺ッタラ、斯ウ仰ッシヤッタト云フコトヲオ母サンニ申上ゲテ、オ母サント相談ノ上デ、成ルベク穩カニオ父サンニサウ云フコトハ止メテ下サイト、御話ニナツタラ宜イデセウト斯ウ云フコトデ、ソレカラオ母サンニソレヲ話シタ、オ母サンハ、子供モ一緒ニ心配シテ學校ノ先生ニ伺ッタラ斯ウ云フコトデアリマシタガ、私ガ言フダケデアアリマセヌ、アナタノヤウナコトヲシテ御イデニナツテハ家ガ立チマセヌ、ドウカ止メテ下サイト云フト、疳癪ヲ起シテ生意氣ナ、默レ、子供ノ癖ニ生意氣ダト云フヤウナコトデ一向應ジマセヌ、斯ウ云フコトハ私ガ想像シタコトデアリマスガ、聞ク所ニ依ルト之ニ類似ノコトハ全國諸處ニ澤山アルヤウデアリマス、警視廳ヤ或ハ地方ノ警察ノ方デ御調べニナツタラ、競馬狂ガ家産ヲ傾ケ、且色々ノ犯罪ノ原因ニナツテ居ルト云フコトハ、存外多クアルト云フコトデアリマス、處ガ只今文部大臣ノ御答辯、總理大臣モ其ノ通り宜シイト仰セラレタ、現行競馬法ノ制度ニ於テハ前半ニ仰ッシヤッタ趣意ニ反シナイト云フ御答辯デアリマス、サウシマスト今ノ競馬狂ノ主人ガ公許ノモノダカラ惡イモノデナイト云フ主張ヲ是認サレルモノデアリマスカ否ヤ、競馬狂ヲ放ッテ置イテ、公許シテ何故宜イカ、惡ケレバソナモノヲ許ス答ハナイ、ソレヲ是認サレルコトニナルノデアリマスカ、明確ニ御答ヲ願ヒタイ、是ハ新聞記者ニ御願ヒシテ置キマスガ、抽象的ノ問答デハ世人一般ニ……

○議長(伯爵松平賴壽君) 新聞記者ニ此處デ言フコトハ……

○土方寧君 ソレデヤ宜シウゴザイマス、アナタ方全部、此ノ議場ヲ通シテ世ノ中ニ機會ガアレバ御傳ヲ願ヒタイ、ドウモ抽象的ノ問答デアハ實際ドウナルカ分リマセヌ、只今ノヤウナ例ヲ設ケマスト、是ハ決シテ空想デヤナイ、其ノコトハ警視廳ヤ警察署ヲ方々調ベタラ分ルト思ヒマス、ソレデ今ノ私ノ具體的ノ例ニ付テ、私ノ伺ッタ所デハ、文部大臣ノ御答ト總理大臣ノ御答ハ競馬狂ノ主人ノ言フコトヲ是認サレルト云フコトコトニナルト思ヒマスガ、ソレデ宜シイカト云フコトヲ伺ッテ、其ノ上ニ於キマシテハ又何カ申シマス

(國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル)

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今御引キニナリマシタ例ハ、其ノ法ヲ惡用シタモノデアリマシテ、其ノ點ニ付テハ決シテ之ヲ是認スルコトハ出來ナイト存ジマス、左様ナ弊ニ對シマシテハソレモ執ルベキ途ヲ取ッテ、之ヲ改メルコトガ聖旨ニ報イル所以ト存ジマス

(土方寧君演壇ニ登ル)

○土方寧君 ドウモ不得要領ノ御答デ驚キマシタ、惡用シタ結果ダ、競馬ノ馬券ヲ買ッテモ宜イコトニナツテ居ルノヲ買フノガ惡用デスカ、許シテアルノダ、答辯ニナラナイ、試験問題ナラ落第ダ、斯様ナ問答ヲシマシテモ何ニモ目的ヲ達シマセヌ、此ノ内閣デモ思想問題ヲ非常ニ強調セラレテ居ル、幾多ノ聲明モ發セラレテ居リマス、ケレドモ口ニ言ハレル所ノモノガ實際行ハレテ居ラナイ、却テソレヲ裏切ルコトヲ默許シテ居ラレル、公許セラレテ居ル、孔子ノ言ニ巧言令色仁ニ鮮シト云フコトガアリマスガ、仁ニ鮮イ位ノコトデハナイ、私ノ關スル所デハ文部大臣ノ先般仰ッシヤッタ趣意デ、馬券

附議馬ヲ行フト云フコトハ、聖旨ニ背キ、大義ヲ沒スルト斷言シテ宜イト思ヒマス、大義ヲ沒スルト言ッテ不服ナラバ、辯駁シテ下サイ、聖旨ニ背ケバ大義ヲ沒スル、大義ノ名分ガ立チマセヌ、ドウモコナコトヲ言ッテモ、詰リ暖簾ニ腕押シシタヤウナコトデアリマシテ、謂ハバ馬ノ耳ニ念佛ノ類デアリマスカラ、是レ以上何モ言ヒマセヌ

○議長(伯爵松平賴壽) 日程第十一ヨリ日程第二十一迄ノ請願、會議

(左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

意見書案

寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案成立ニ關スル件
東京市本郷區本郷三丁目十六番地平民僧侶今井鐵城外二名呈出
東京市淺草區松清町四十番地平民僧侶爲郷世淳外五名呈出
奈良市登大路町番外一士族僧侶大西良慶外二百二十二名呈出
右ノ請願ハ寺院ノ境内地護持保存ハ寺院存立ノ基礎ヲ鞏固ニシ其ノ教化活動上寄與スル所大ナルニ依リ政府提出ニ係ル寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ハ速ニ之ヲ成立セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

水産會ノ活動促進ニ關スル件
東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出
右ノ請願ハ我國漁村ノ現狀ニ鑑ミ之カ指導機關タル系統水産會ノ活動ヲ促進スルハ緊要ナルニ依リ速ニ國庫補助ノ増額其ノ他適切ナル方策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

水産試驗機關ノ整備充實ニ關スル件
東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出
右ノ請願ハ我國水産業ハ近時長足ノ進歩ヲ爲セルモ尙時局ニ鑑ミ漁業用物資ノ節約、代用品ノ研究等科學的探究ニ俟ツヘキモノ多キニ依リ速ニ水産試驗機關ノ整備充實ヲ圖リ以テ漁業經營ノ改善ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

漁業用資材ノ配給ノ圓滑並價格ノ合理化ニ關スル件
東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ漁業用物資ノ規正ハ益強化セラレムトスルノ實情ニ在ルノミナラス統制ニ依リ價格ノ暴騰、配給ノ不圓滑ヲ來タシ爲ニ生産ノ確保期シ難キモノアルハ甚遺憾ナルヲ以テ速ニ適當ノ對策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

北海道船舶業者所有船舶ノ燃料配給ニ關スル件
北海道天鹽郡天鹽町長梨澤環呈出

右ノ請願ハ北海道天鹽町ノ船舶所有者ハ其ノ業地概ネ樺太及本土方面ナル爲同町ニ於テ交付シタル燃料購買券ハ其ノ用ヲ爲ササルコト多ク所要燃料ノ購買上不便少カラサルニ依リ昭和十四年度ハ北海道船舶業者ニ對シ同道ニ於テ交付シタル船舶燃料購買券ハ樺太ニ於テモ通用シ得ルカ又ハ樺太ニ於テ燃料ヲ購入シ得ルノ方法ヲ講セラレタシトノ趣旨ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

邊富內線鐵道速成ノ件
北海道勇拂郡占冠村長峰廻英男呈出
右ノ請願ハ未成線邊富內線鐵道ノ完通ハ

菅ニ沿線地方ノ豐富ナル農、林、鑛產資源ノ開發ニ止マラス運輸交通並軍事上亦裨益スル所多大ナルニ拘ラス之カ工事ノ中止ヲ見タルハ甚遺憾ナルニ依リ同鐵道ノ繼續施工ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

遠羽線鐵道速成ノ件
北海道留萌郡留萌町長赤石忠助外九名呈出

右ノ請願ハ未成線遠羽線鐵道ノ速成ハ北海道天鹽沿岸鐵道ノ完通トナリ沿線地方ニ於ケル林、鑛產資源及海田ノ開發上資スル所大ナルノミナラス運輸交通並軍事上亦須要ナルニ拘ラス之カ工事ハ昭和十二年度ヨリ五箇年計畫ヲ以テ著手ニ決定シタルモ其ノ後豫期ノ進捗ヲ見ス殆ント中止ノ狀態ナルハ遺憾ナルニ依リ速ニ同鐵道ノ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

貴族院議長 伯爵松平 賴壽
內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿
昭和十四年 月 日

意見書案

南勝線鐵道關金、山守間ノ泰久寺ニ停車場設置ノ件

鳥取縣東伯郡南谷村長西田延次外四名呈出

右ノ請願ハ鳥取縣東伯郡南谷村字泰久寺ハ交通ノ要衝ニシテ附近ニ農、林、鑛産等ノ資源ヲ擁シ停車場設置ノ好適地ナルニ拘ラス未成線南勝線鐵道中近ク著工セラレトスル路線ニ於ケル停車場豫定地ハ關金及山守ノミナルハ甚遺憾ナルニ依リ泰久寺ニ停車場ヲ設置シ以テ運輸交通ノ利便ト産業ノ進展ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

高崎線電化促進ノ件

群馬縣高崎市長久保田宗太郎外十七名呈出

右ノ請願ハ群馬縣高崎市ト埼玉縣大宮町ヲ結フ帝都近郊ノ重要幹線タル高崎線ニ電車ヲ開通セシメ以テ時間ノ短縮ヲ圖リ且運轉回數ヲ増加スルハ産業交通、觀光竝國防上貢獻スル所多大ナルニ依リ速ニ之ヲ實現セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

鳥取縣東伯郡古布庄村役場ニ電話架設ノ件

鳥取縣東伯郡古布庄村長杉山民次郎呈出
右ノ請願ハ鳥取縣東伯郡古布庄村ハ近時通信事務ノ増加等ニ伴ヒ電話ノ所要切ナルニ拘ラス今尙其ノ設備ナク之ヲ架設ニハ多額ノ費用ヲ要シ到底村財政ニテハ負擔ニ堪エサルヲ以テ同村役場ニ電話ヲ架設スルヤウ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

牟岐線鐵道日和佐、土讚線土佐山田驛間鐵道敷設ノ件

德島縣海部郡日和佐町長喜田清一外五名呈出

右ノ請願ハ未成線牟岐鐵道日和佐ヨリ德島縣赤河内、延野、日野谷、宮濱、中木頭、上木頭、木頭及高知縣橫山、在所、美良布、片地、大楠植ノ諸村ヲ經テ土讚線土佐山田驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル林産資源ノ開發上貢獻スル所大ナルノミナラス日和佐港ノ完成ト相俟テ阪神地方ト連絡シ運輸交通並軍事上亦須要ナルニ依リ速ニ之ヲ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

○議長(伯爵松平賴壽君) 是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告通り、採擇スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 次會ノ議事日程ハ決定次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時十三分散會

